

企業局経営プランにおける令和5年度実績（自己評価）に対する意見

鳥取県企業局経営プラン評価委員会

【令和5年度実績評価】

項 目		委 員 意 見	評価区分の 見直し等	
事業別事項	1 電 気 事 業	①供給電力量 (CO2 排出量削減)	<ul style="list-style-type: none"> 台風被害はやむを得ないものであるが、機器不具合は真に事前に防ぐことができなかつたのか、民間企業ではどのような措置を取っているか等を更に検討していただきたい。 災害対策については、今後の取組課題とされるよう要望する。 	C
		②売電方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 短期契約も長期契約分も対象発電所は 100%の達成率となっているが、更に合理的な売電方法を検討する余地があるためA評価が相当。 	S⇒A
		③発電所リニューアル事業の実施及び検討	<ul style="list-style-type: none"> 不可抗力的な台風第7号の被害によるものであり、再整備期間が6か月延長されたことはやむを得ないとはいえ、契約変更となったことからB評価が相当。 	A⇒B
		④経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> 台風被害、機器不具合により目標どおりの発電ができなかつたことから、経常収支比率の数値目標が未達となっており、その原因が外的要因とは言え、B評価とすることはやむを得ない。 	B
		⑤地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 小水力発電所の管理業務の地域への委託は大きな意義があるものと考えられ、大いに評価できる。 コロナ禍前の年12回に近づく改善（達成約83%）が見られる。 	A
		総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> 台風によるコンセッション発電所運転開始時期の一部延期及び左治発電所の運転停止、新幡郷発電所等の機器不具合により、既往の企業局経営モデルが一時的に崩れており、発電所の復旧等による企業局経営モデルの再生が待たれる。当面、厳しい経営環境が続くが健闘を期待したい。 	
	2 工 業 用 水 道 事 業	①新規需要開拓	<ul style="list-style-type: none"> 二つの工業用水道を合わせると目標達成率は160%となっており、営業努力が実を結んでいることから高く評価できる。 	A⇒S
		②施設の適正管理（日野川）	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標の漏水事前対策箇所は、達成率は100%超であるが、これに加えて、懸案であったバイパス管整備の今後の方向性を考える目途をつけたことは大きな進歩である。 守りの感がする漏水事前対策箇所よりは、アクティブな感がする漏水事故件数の削減等の、より現実的な数値目標が必要と思われる。 	S
		③経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> 構造的に赤字部門である中で、目標達成率は一定の水準を確保している。 	A
		総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な半導体産業立地動向から、工業用水の重要性が見直されている中、工業用水事業の更なる管理や営業努力が求められる。 今後の工業用水のあり方については、維持管理への民間企業のノウハウを活用することを検討していただきたい。 	
3 埋 立 事 業	土地の分譲	<ul style="list-style-type: none"> 債務超過が解消したことは、関係者にしっかりと認知され過去の危機的な状況から大きく改善が図られたことが共有されるべき。 長期貸付から土地分譲への移行については、行政努力を超える面もあり簡単ではないため、債務超過も解消していることから長期的に進めていく必要がある。 	B⇒A	
4 共 通 事 項	人材育成と業務体制の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 厳しい経営環境の中で経営感覚を持ってアクティブに対応している。 職員の知識と経験の蓄積がこれまで以上に重要となることから、今後も重要な取組課題と位置づけて取り組まれることを要望する。 	A	

項 目	委 員 意 見	評価区分の 見直し等
総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所の再稼働、工業用水事業の活性化等新たな企業局モデルを構築することで経営努力を行っており、今後の努力に期待したい。 	